

## —中部地方整備局—

## 維持管理費の削減と省人化を目指した除草作業の取り組み

## 1. はじめに

道路の維持管理費は、定期点検等で予算が増加することで日常管理のコスト削減が必要となり、管理レベルを下方修正等でやむなく対応してきている。除草については、回数を減らすこと等で行政相談が増え、職員の負担が増加し苦慮している。

ランニングコスト削減のため、紀勢国道事務所では保護路肩部のコンクリート張りも併用しているが、イニシャルコストが高いため整備が進んでいない。そのため維持管理費削減のために初めて除草剤を使用することとしたので、その概要を報告する。



散布状況

## 2. 現状と課題

法面の植生は、路面まで伸びなければ、道路の構造上、交通安全上大きな問題はなく、法面保護の効果が期待できる。これに対し保護路肩部と縁石、舗装の目地部からの雑草は、歩行者や路肩を走行する自転車の通行障害やドライバーの死角が増えることで交通安全上の問題や、歩行者のつまづき、接触して車両を損傷するなど管理瑕疵が懸念される。

除草は、年1回の全面刈りと複数回の部分刈りを行っているが、除根を行っていないため、再度繁茂し行政相談を受けているのが現状であり、除草費については、削減が困難な状況となっている。

## 3. 除草剤活用の検討

現状と課題を踏まえ、除根と同様の効果が得られる除草剤の使用について検討をすることとした。

環境省の「公園・街路樹等病害虫・雑草管理マニュアル」に準拠し、特に『必要最低限の範囲』『散布時の飛散防止』『周辺住民への周知』については、舗装等目地部に限定し、無風時及び飛散防止ノズルの利用、自治体と協働して周知ビラ・施工時の看板等で計画している。

除草剤の選定は、市販品3種類を2期線用地で試験施工により、効果が高かったアミノ酸系を使用することとした。

## 4. 使用結果

アミノ酸系除草剤の推奨最低濃度である100倍で希釈し使用した結果、散布した雑草をほぼ枯らすことができた。また飛散防止ノズルを使用したため、散布範囲外の草に影響は出なかった。その反面、枯れない種類の草もあったため、今後希釈倍率の調整等で効果の検証をしていく。

省人化に関しては、草刈り機で除草する場合、飛び石対策が必要となり5人で除草していたが、除草剤の場合は2人で作業することができ効果的であった。



散布後の状況

## 5. おわりに

当事務所として初めて除草剤を使用した結果、限定された範囲でのコスト削減、省人化について良好な結果だといえる。今後、除草剤の希釈倍率、散布のタイミング、年間の散布回数、継続的に使用した場合の雑草の生育変化などについて効果を検証して効率的な除草作業を目指していきたい。

(国土交通省 中部地方整備局 紀勢国道事務所 管理第二課 北端 大地)